



菜の花の中に隠れてしまいそう

まるで黄色の海原(三本木)

三本木地区齊田地区にあるひまわりの丘に、約200万本の菜の花が咲きそろい、4月29日から5月13日まで「菜の花まつり」が開催されました。見渡す限り黄色に染まつた丘は息をのむ美しさで、まるで黄色の海原、別世界を訪れたような心はずむ気分にさせてくれます。今年は好天にも恵まれ、たくさん的人が美しい菜の花の海を見に訪れ、過去最高の来場者数を記録しました。

夏にはヒマワリが再びこの丘を黄色に染めます。ヒマワリの季節が、楽しみですね。



連続受賞、おめでとうございます

環境保全活動が認められました(鹿島台)

特定非営利活動法人シナイモツゴ郷の会が、環境保全への優れた活動をたたえる「明日への環境賞」(朝日新聞社主催)を受賞し、市長に報告しました。1月にも平成18年度の「田園自然再生活動コンクール」で農林水産大臣賞を受賞し、今回で連続の受賞となります。地元の自然を守るために、ひたむきに努力してきた会の活動が評価されたものです。希少な魚「シナイモツゴ」が地域で見られるようにシナイモツゴの繁殖や外来魚の駆除など、今日も会の皆さんには頑張っています。



かれんに咲く山野草に思わずほおが緩みます



もう少しで火がつきそう。頑張れ!

裸足で元気に米作り!(松山)



いつも食べている米がどのようにできていくか少しあわかったかな?

5月12日、13日の2日間、田尻農村環境改善センターで「春の山野草展示会」が開催されました。

田尻山野草愛好会が毎年春と秋に開催しているもので、今年で11年目を迎えます。山野草を愛する27人の会員が手塩にかけて育てた約300鉢が展示されました。

当日は、展示会を楽しみにしている地域の人たちが次々に会場を訪れ、育て方のコツを聞いたり、山野草の魅力などを語り合いながら、かれんに咲く草花を優しいまなざしで眺めていました。

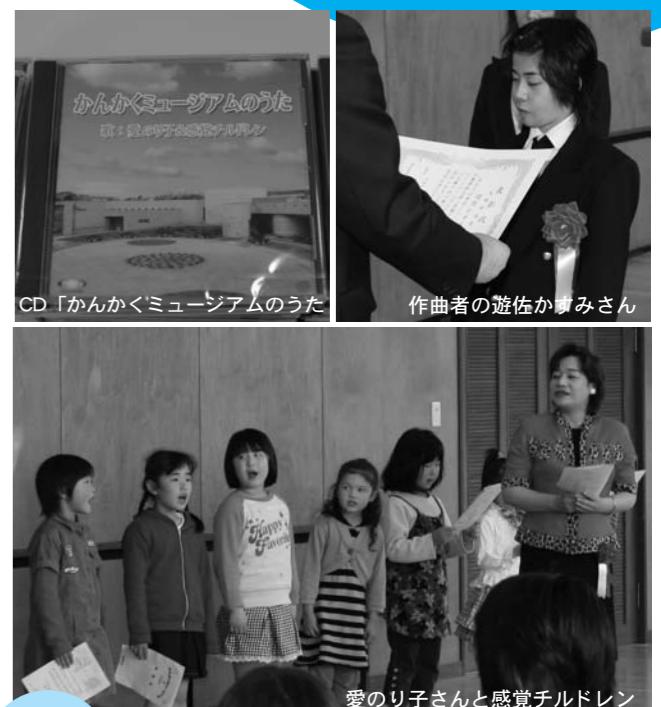
かれんに咲く山野草に癒されて(田尻)



皆さん、新緑の中を気持ちよさそうに歩いています

わらじで歩こうおくのほそ道 松尾芭蕉の旅路を歩いて学ぼう(鳴子温泉)

5月13日、「わらじで歩こうおくのほそ道」が開催されました。この行事は、松尾芭蕉が歩いたおくの細道を、歴史を勉強しながら歩くもので、講師の高橋忠治先生の説明を聞きながら、芭蕉の歩いたころの街道に思いをはせました。鳴子温泉から宮城と山形の県境まで続いているおくの細道(中山越え)は、約10kmあります。時折雨が降るあいにくの空模様となりましたが、参加者の皆さんには休憩をはさみながら、自分のペースで芭蕉の旅路を楽しんでいました。



愛のり子さんと感覚チルドレン

「かんかくミュージアムのうた」発表会 ミュージアムのうたができました!(岩出山)

「人間の五感」をテーマにしたミュージアム「感覚ミュージアム」が開館7周年を向かえました。これを記念して「かんかくミュージアムのうた」が制作され、5月13日に発表会が開催されました。

施設を管理運営しているNPO「オープンハート・あつたか」が、地域の人たちや来場者からもっと親しまれるミュージアムになるように企画したもので、理事の淡路義宏さんが作詞。「みる、きく、さわる、かおりをかぐ、あじわう、かんじる たのしいな」「せかいにひとつのかんかくミュージアム」など親しみやすく覚えやすい歌詞です。それに合わせた曲を募集したところ7曲の応募があり、県盲学校1年生の遊佐かすみさんの作品が選ばれました。とても楽しいリズムに仕上げられた「かんかくミュージアムのうた」は、登米市の歌手、愛のり子さんと地域の子どもたち7人で結成された「感覚チルドレン」が元気に歌い、既にレコーディングも終わりCDも制作されています。

「かんかくミュージアムのうた」とともに、感覚ミュージアムがさらに親しまれていますように。